

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--|------------|------------|
| 事業所番号 | 2792000115 | | |
| 法人名 | 医療法人 真芳会 | | |
| 事業所名 | 医療法人 真芳会 いきいきグループホーム杉本(2階)【評価結果は2ユニット総合評価結果】 | | |
| 所在地 | 大阪府大阪市住吉区杉本1丁目6番16号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=2792000115-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人ぱ・まる |
| 所在地 | 大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2 |
| 訪問調査日 | 令和5年12月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで暮らしてこられた習慣や環境を継続していただけるように支援を行っています。お一人お一人の個性を大切に、変化がある毎にご家族やご関係者と連絡を行い、どのように対応すれば良い方向に、向かう等を事業所内で話し合うことはもちろんであるが、連携している地域の方や事業所の方々からもアドバイスを受け、より良い方向にご利用者様が安心して、気を使わないご自宅のように感じて暮らしていただけることを維持できるように努めております。ご家族様の高齢化に伴い、介護保険申請や介護相談に応じれるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の制限下において、外出や交流が困難な状況の中、利用者が外気に触れ、身体を動かせる機会の確保として、施設近隣の畑を活用した活動等を拡充されていました。制限緩和に伴い、近隣社会資源を活用した外出や外食等、可能な範囲から再開されています。散歩の機会等も拡充されており、コロナ禍前に近づけられることから、積極的に取り組まれています。利用者の意向に沿った外出機会の拡充も再開されており、利用者の活動範囲と活動量を従前に戻していけるよう努められています。利用者の運動能力・生活能力の維持にも配慮し、戸外活動の再開を拡充すると共に、施設内でも、利用者が能動的に動ける機会や、動きたいことの実現ができるよう配慮されています。近隣の地域の方々との交流や、地域のボランティアの活動も再開されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

【評価結果は2ユニット総合評価結果】

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 各ユニットに当施設の理念を掲示し、全ての職員に周知し、共有に努めている。 | 理念は、地元地域との繋がり、生活を大切にした内容となっており、職員全体で、理念の実現に向けて取り組まれています。利用者の意向を踏まえた、外出や活動を意識して展開することによって、理念を踏まえた支援の実現となるよう努められています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に所属し、地域の催しに参加しやすい環境であり。コロナの影響で外出を控えていたが、地域のお店などに出かける機会が多くなってきている。また、運営推進会議等で地域の方からのご意見やアドバイスが必要な時は包括や近くのケアプランセンターに伺うようにしている。 | 利用者と共に、地域の社会資源を活用した、外出や外食等を再開されており、地域の一員としての生活を展開されています。地域行事や近隣大学の行事等にも参加されており、地域の他福祉施設との交流等も行われています。日常の散歩時にも地域の方々との会話や交流を大切にされており、地域に根ざした施設であることを留意されています。 | コロナ禍の制限下において、制限されていた地域交流の再開と拡充に期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 随時、認知症の話題を申し送り時などで話し、業務中でも実際に話し合い、その都度解決をしております。日々の業務の中で知識や優しい気持ちを身に付けており、ご家族様からもご相談に応じれるように努めております。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染予防対策として、長い間、文章での介護報告であったが、少しずつ開催することで、交流が増えている。施設外からのお声は貴重であり、参考になることが多い。 | コロナ禍の制限下においては、書面による代替開催となっていましたが、制限緩和に伴い対面での開催が再開されています。近隣住民・地域包括支援センター・町会長・家族等の参加で開催されています。家族や外部の意見や考えを聞く貴重な機会であるという位置づけで行われています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 生活保護受給者の方あ大半であり、担当のケースワーカーに利用者様の変化時や情報が必要な時などは、積極的に電話や窓口まで伺い、相談を行っている。 | 地域包括支援センターが近隣にあるため、情報交換・情報共有が積極的に行われており、利用者の権利擁護等も含めた連携や対応が行われています。制限緩和に伴い、地域活動や啓発活動の協働が検討されています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する研修、契約時にも何が拘束になるのかなどを説明を行っている。身体拘束を行わない支援を基本にしている。 | 2ヶ月に一回の適正化委員会の開催があります。法人全体での研修が実施されています。委員会の内容は、職員間に共有されています。言葉による拘束についても留意されており、職員間相互で違和感や疑問を感じた場合は、適切な言葉がけとなるよう留意されています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 不適切と感じたことは互いに、納得できるように話し合い、管理者に報告ができています。また、研修で学んだことも反映し、意識に変化が見えてきている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人制度の利用を必要とされている方に対して、現在も包括と話をすすめているケースがある。その他、市民後見人の方との交流も増え、利用者様相談が迅速に行えている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時や契約時に、ご家族様や関係者に対して、説明を行い、ご理解していただいた上で契約を結ばせていただいております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族様や関係者様、利用者様からのご意見や要望は来所時や電話でもご意見をいただき、職員へ通達し、解決しないといけないことは迅速に反映している。利用者様の要望は直接、お聞きしています。また、1階玄関フロアにご意見箱を設置し、意見要望の収集に努めております。 | コロナ禍の制限下において、面会制限等、家族との接点が減少していたため、限られた面会時や電話連絡の際に家族等から得られるよう配慮されています。ショートメールやLINEを活用し、家族等が気軽に言いやすい環境づくりに配慮されています。家族等からの意見や返信は、職員にも共有されているため、速やかに直接の支援にも繋げられるよう努められています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の日々の業務をされているところや会話時の様子などで対応を変えている。ユニット会議で問題点をあげてもらい施設運営に反映できるように努めている。 | 職員の意見等が言いやすい環境作りに配慮されており、ちょっとした疑問や提案等についても、利用者にとってプラスとなるよう取り組まれています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与水準と労働意欲の相関を意識し、職員への聞き取りを行っている。職員がやりがいや楽しみを持ち、業務に就けるように職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 得意分野や苦手と感じていることを把握し、法人内や外部研修の機会を設け、技術はもちろんであるが、人としての相手の気持ちを理解できるように向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 以前は地域の研修会に多く参加していたが、コロナの影響があり減っている。最近は、以前のようにはいかないが研修や集まりの会が増えてきており、会でしりあった事業所とのネットワークを大切にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 住み慣れた自宅を手放し、不安と感じて入居される方が多くおられます。他の利用者様と別に時間を作り、特別な時間を提供させていただいております。ご家族様や関係者様にもご協力していただき、電話や来所していただくこともあります。趣味や得意なことなどをお聞きし、不安が軽減され、施設での生活が気を使われることなく、自宅のように暮らしていただけることを目指しております。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学やお問い合わせなどの回数を重ね、ご家族様や関係者様に入居されてからの方向性を話し合い、その都度意見や要望の確認を重ねていける環境作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメントの段階で本人様やご家族様や関係者様と面談を重ね、施設での暮らされる上での要望やどの支援が必要か習慣など継続して実施希望されることなども聞き取り、入居まで、出来る限りご自宅に伺う機会を多く、もつようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居されてからの約3ヶ月は頻回にご家族様や関係者様に連絡をさせていただき、来所のお願いもすることがある。どのような援助が必要であるのかを話し合い、柔軟に対応し、支援に活用できるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 施設側が主体な支援にならないように時間がかかっても、ご自身の機能を生かし、施設が自身の家だと感じて過ごしていただけるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 職歴や馴染みの習慣やご家族様以外でのご友人関係の方にも気軽に電話やお便りなどで交流が継続できるように努めている。 | コロナ禍の制限下においては、できる事が限られ交流等も困難な状況でしたが、制限緩和に伴い、地域の馴染みの場や社会資源の活用等、可能な範囲での交流再開が行われています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットに関わらず、利用者様を把握し、共同生活の場として、利用者様同士が関わりやすい環境や利用者様に合った役割をもつていただけるように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も、ご家族様や関係者様にお手紙やお電話させていただき、ご家族様に継続してご支援ができる関係をもつようになっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 担当を決め信頼関係を深めるようにしている。聞き取りが困難な方には、ご家族様や関係者様にお話をさせていただき、ご本人様ならどのように考えておられるか、ご本人様のお気持ちに近づけるように検討を繰り返すようにしている。 | 日常の利用者との会話ややりとりから得られた、利用者本人の思いや事実を把握共有し、計画更新時等に活用できるよう努められています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 職歴や生活環境や嗜好などを情報収集し、ケア内容や要望をユニットや担当者と共有し、状況把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活記録にて個々の生活リズムを把握に努めており、変化時はユニット全体で共有し、統一したケアを提供できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様、関係者様と話し合い、現状のニーズに適した介護計画の作成をしている。 | 契約の更新時には、利用者の意向を確認し、担当者会議や、看護師や自立支援医療等医療面からの意見等も踏まえながら、計画の策定に繋がられています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の中でモニタリングを行い、必要に応じて、計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況変化に対してのニーズに対応できるようにその都度、本人様やご家族様、関係者様と話し合い、最良な支援を考察し、支援できるように努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナの影響で控えていた地域のイベントも開催されるようになり、参加されてもしている。地域の方に情報なども参考にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 母体の医療機関がかかりつけ医であり、2週間に1回の訪問診療を実施しており、その他、歯科・眼科の訪問がある。訪問看護については健康管理を行い、24時間連絡体制がある。個別でも病気で受診が必要な時は基本は家族対応であるが、職員が対応することもある。 | かかりつけ医は、利用者意向で決定されており、従前からの主治医を継続される利用者もいらっしゃいます。居宅療養管理指導体制が整えられており、医師・薬剤師・管理栄養士の関与で、利用者の残存能力の維持向上に配慮されています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 状況を把握し、気になることは早急に報告している。内服の変更なども連携している訪問看護師に報告することで医療との連携をはかり、適切な指示を受けられる体制が整っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療ケアが必要でない時から、ご本人様や家族様等より、意向を聞き取りをしており、連携している医師や看護師と話し合いを重ね、状態に合ったご支援ができるように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に看取りに関する指針及び重度化した場合の対応に係る指針を元に出る範囲の内容を説明し、同意を得ている。現在も看取りの方が1名おられる。ご家族様やご本人様の意向の元でお手伝いをさせていただいている。 | 利用開始時に、重度化と終末期に関する指針の説明が行われ、同意が得られています。利用者の意向を踏まえた看取りも、可能な状況である場合は対応されています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | いつもと様子がちがうなどの緊急性が高いと判断した時のフローチャートを共有しており、迅速に要請を行うように指示をだしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の防災訓練や大雨などの想定での災害について話し合うことがあり、行政からの防災速報を利用している。備蓄品についても水や食べ物の備蓄がある。 | BCP(事業継続計画)の策定が進められています。水防法・消防法に基づく訓練が、夜間想定等含め実施されています。食料品・飲料水・消耗品等の備蓄品等が三日分を目処に準備されています。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 法人研修の他にユニットで不適切な言動があった場合はその都度、指導を行っている。ユニットリーダーが中心となり、聞き取りを行うことで、職員間でも注意できる関係性が築けている。 | 法人としての研修が実施されています。職員相互でも意識する事によって、不適切な対応や声かけが生じないよう、蔓延しないよう配慮されています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の生活での関わりの中で利用者様自身がどのように事でも選択できるような声かけを心がけるよう職員にアドバイスをし、利用する立場になり、その思いを自己決定できるようにお手伝いをしている。周囲に気を使われることなく、ご自身の意見や考えが表されるように援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の生活リズムや長年の習慣などを把握し、夜間不眠の方については、塗り絵などの手作業を主にし、ご自身のペースで生活が継続できるように柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の起床時や入浴後の衣類の準備は季節や天候の声かけにやアドバイスをさせていただき、自身の好みの服を選んでいただけるように心がけている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様は出来る範囲でお手伝いをされている。利用者様の状態に応じて、刻みやミキサーなども提供している。食事が摂れなくなってきている方には、嗜好と嚥下状態に合わせて、提供している。お楽しみランチなども企画しており、楽しんで食事ができるように工夫している。 | 利用者のやり甲斐や動く機会を大切に、利用者のできる範囲で準備や片付け等も行われています。コロナ禍の制限下において、外出制限が大きかったため、食べる事に楽しみを見だし、楽しみにできるように配慮されています。食事レクリエーションも定期的開催し、利用者も期待するものになっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 制限がある方については、理解が困難な時もあるが、なぜ制限が必要かもお伝えしている。職員も病気などを把握し、学び、知ること、利用者様が理解されやすく、伝えることができていると考える。食事量や体重についても管理士に相談しながら、振り返り、見直しを行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 週1回は連携している歯科より、衛生士の訪問があり、日々の口腔ケアの中でケアの仕方などを疑問に感じることはアドバイスを受けることができ、実践している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 睡眠状況や排泄リズムを知り、記録を残し共有することで可能な限り、負担にならないようにトイレの声かけを不快に感じられように努めている。夜間は2時間毎に巡視を行い、トイレ誘導も行っている。安眠を希望する場合は大きめのパットの利用をしていただくなど個人の要望に沿って対応している。 | トイレで排泄することが継続できることを大切にされています。利用者の意向や思いを踏まえ、過度にならないトイレ誘導に努められています。誘導時の声かけは、話の流れなどから自然に繋げられるよう配慮されています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 週に3回はヨーグルトを提供しており、牛乳も特に制限のない方については毎朝提供している。なるべく内服でなく、自然に排便があるように、お腹のマッサージや運動に心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回を基本としているが衛生面を考慮し、臨機応変に対応している。同性介助を希望される方については、希望通りに対応している。入浴のご辞退したいお気持ちがある方についてはできるだけ、馴染みの顔の職員が担当するなど職員間で話し合い決めている。 | 予定入浴が基本ですが、利用者の意向や状態を踏まえた柔軟な対応ができるよう努められています。入浴時は、利用者との重要なコミュニケーションの場であると意識し、楽しい会話、気分良く入浴して頂く事に配慮されています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 電気の明るさなど、好みに合わせ調整している。安心して休んでいただけるように個々に合わせた環境を提供している。室温の調整が出来ない方が多く、巡視時には室温の確認を行うように指示している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方されている内容を把握し、薬の作用や副作用なども理解した上で服薬時の介助を行っている。服薬支援時に飲み込みにくいやムセがある等が気になった時は、医師や薬剤師に相談や報告を行い、対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様がお一人で作業をするのではなく、職員も共に行うようにしている。利用者様に押しつけや負担に感じられないように、ご様子を見て提案しています。また、習慣や職歴なども知ることで得意なことなどを日々の生活で継続できるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 少人数であるが、馴染みのお店などに出かける機会をもっている。大勢で一度には外出はむずかしいが、ご家族様や関係者様等の協力を得れば、円滑に実現できることが多い。 | コロナ禍の制限下においては、制限が大きく困難でしたが、制限緩和に伴い近隣の社会資源を活用した外出や外食等が再開されています。利用者意向に沿った、個別の散歩や外出も再開されており、できる事から従前のような外出支援に戻せるよう努められています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>買い物時や自販機での購入時は利用者様の状態に応じて支払いを通し、外部の方との交流をもつように支援している。</p> | | |
| 51 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>精神的に不安定になると、ご家族様の声が聴きたいとの希望が多く、連絡をすることが多くあり、数日後には来所されるご家族様や関係者様多くおられ、協力を得ている。</p> | | |
| 52 | (19) | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>季節を感じていただくために壁画などの作成に携わっていただき室温や換気については職員が不快に感じられなく、快適な環境を提供できるように努めている。</p> | <p>温度・湿度・換気・清潔保持に留意され、快適に過ごせる空間となるよう留意されています。共用空間には、複数のソファやテーブル、椅子等が配置されており、利用者個々がその場その場で過ごしやすい空間やスペースの確保ができるよう配慮されています。壁面等には季節を感じられる装飾等が行われています。</p> | |
| 53 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>自由に居室と居間を行き来されている。ご自分の思うよう行動していただく為、食後や眠そうにされている時はゆっくりと、横になれることをお伝えしており、誘導を行っている。遠慮され、横になれない方もおられる為、午後はご自身のペースで過ごしておられる方が多くおられる。</p> | | |
| 54 | (20) | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>使い慣れた物や思い出の品を持ち込んでおられ、ご自身が心地よく、リラックスされ、過ごしていただける、ご自分のお好みのお部屋に近づけるようお手伝いを行っています。ご家族様も季節の衣類整理などを対応されています。</p> | <p>居室内は、利用者の体調にあわせた、温湿度調整に努められています。居室内の小物や装飾は、利用者の思いや馴染みのある物が持ち込まれており、利用者の動線や動作、行動も踏まえた上で、希望に沿った配置等となるよう努められています。</p> | |
| 55 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>施設内の環境に関しては安全面に気を配り、利用者様が使用されやすいように工夫や点検を行っています。できることはご自身で見守りの中で生活が送れるように努めています。</p> | | |